

## 基本施策E5 暮らしやすいコンパクトな市街地を形成します

主管課：都市計画課

### 個別施策

- E5-1 自然環境と調和した良好な市街地形成を誘導します
- E5-2 まちなかの住環境を整え、住宅の更新を促進します
- E5-3 住環境の改善及び再生を図ります

### ア 施策の目的

各地区の市街地が、自然環境を保全しながら、各地区の規模に応じた都市機能を充実させ、安全で暮らしやすく、効率的でまとまりのある方向に進んでいる。

### イ 基本施策の評価

D c 目標を達成しておらず、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

### ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2
住みやすいと思う市民の割合	77.6% (26年度)	↑ 目標値	78.9%	79.6%	80.2%	80.9%	81.5%
		実績値	75.9%	76.5%	76.8%		
		達成率	96.2%	96.1%	95.8%		
普段の生活（通勤、通学、通院、買物等）で自家用車を利用する市民の割合	43.9% (26年度)	↓ 目標値	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%	43.9%
		実績値	47.9%	44.7%	47.4%		
		達成率	90.9%	98.2%	92.0%		
中心市街地（浜町～長崎駅～新大工地区）を活気があると感じる市民の割合	40.6% (26年度)	↑ 目標値	42.7	43.8	44.8	45.9	46.9
		実績値	39.5	34.0	41.4		
		達成率	92.5%	77.6%	92.4%		
【補助代替指標】 居住誘導区域内の人口密度※	40.6% (26年度)	↑ 目標値	69.2	68.7	68.2	67.7	67.3
		実績値	69.2	68.3	67.6		
		達成率	100.0%	99.4%	99.1%		

※安全で暮らしやすい場所へコンパクトな市街地が形成される方向に成果が表れているか定量的に評価するため、立地適正化計画の目標値「居住誘導区域内の人口密度」を補助代替指標に追加する。

### エ 評価結果の妥当性

本部会での議論を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。

### オ 審議会における政策評価に関する意見

- 施策の目的として、自然環境を保全しながらとあるが、施策の中に自然環境に対する取組みが全くなかったことが引っかけ。暮らしやすいという要素として自然環境

も重要である。

カ 審議会における施策推進に向けた提案

- 空き家など、今あるものをどうやって使ってもらおうかという新たな枠組みづくりが必要ではないか。

キ 次期総合計画の策定に向けた意見

- 「住みやすいと思う市民の割合」という成果指標の検証について、市民意識調査の結果を指標としているが、コンパクトシティを前提とした設問ではないので、この施策の指標とは言い切れない。設問の意図を分かりやすくする必要があると考える。
- 斜面地再生事業について、現在はハード面の整備だが、今後新たな施策としてソフト面のアプローチがあることで、暮らしやすいまちという部分につながるのではないか。